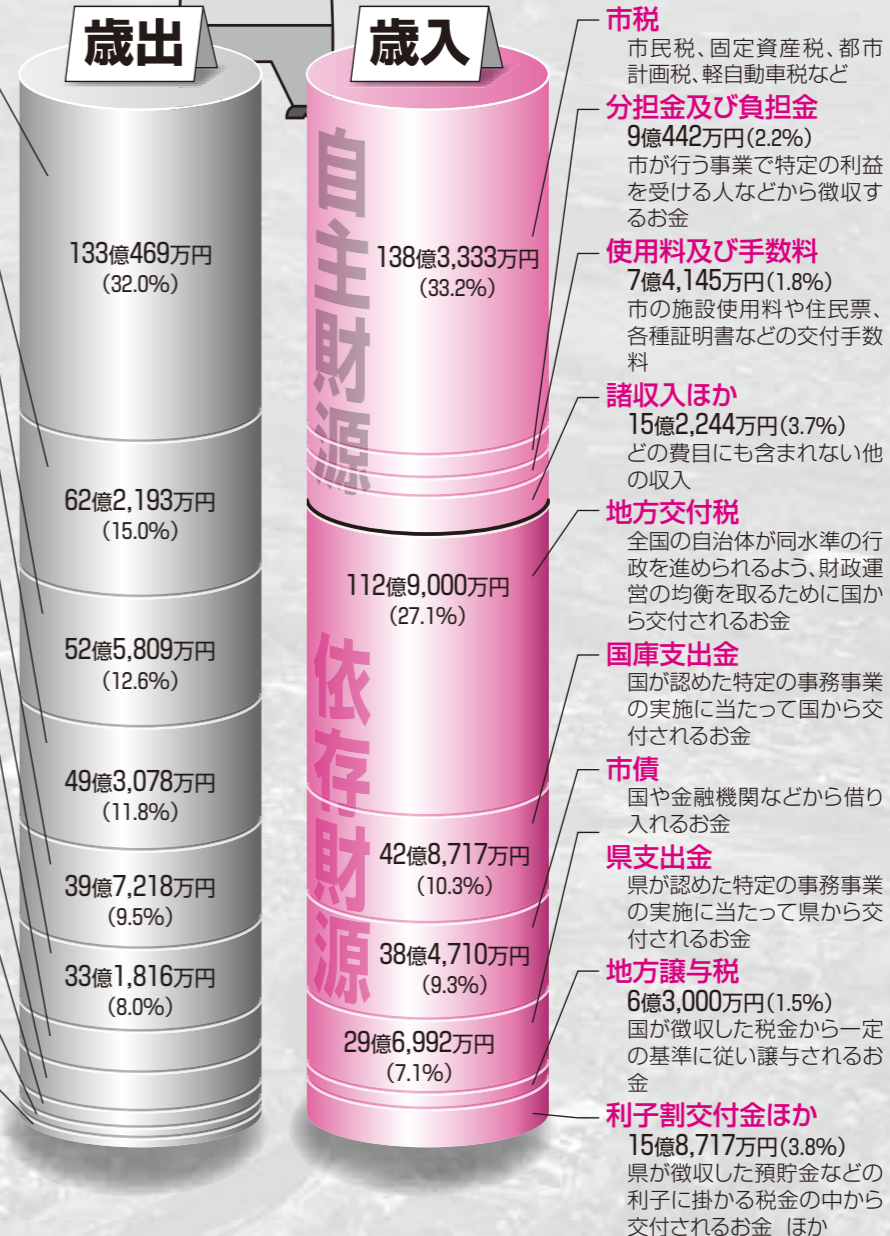
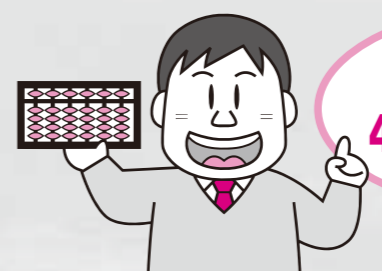


平成20年度当初予算

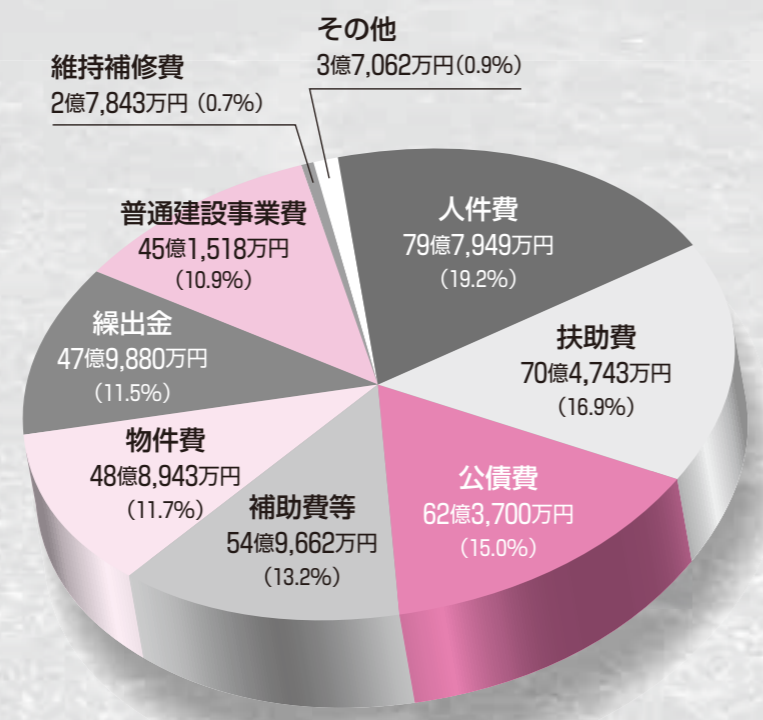
一般会計
416億1,300万円



- 民生費** お年寄りや乳幼児、障害者などの福祉、生活保護、災害救助など
- 公債費** 市の借入金の返済
- 土木費** 道路や橋、公園、住宅整備など
- 教育費** 幼稚園や小・中学校、社会教育、芸術文化・スポーツの振興など
- 総務費** 税務、戸籍、選挙などの事務や市役所の管理など
- 衛生費** 各種健康診断や救急医療対策、ごみ処理など
- 消防費** 17億1,810万円(4.1%)
津山圏域消防組合の負担金や消防団の機庫、車両、災害対策など
- 農林水産業費** 14億8,759万円(3.6%)
農林水産業の振興・農道・林道・ため池の整備など
- 商工費** 6億5,832万円(1.6%)
商工業や交通、観光の振興など
- 議会費** 4億1,577万円(1.0%)
市議会の運営
- その他** 3億4,159万円(0.8%)
労働費、災害復旧費、諸支出金、予備費

- 市税** 市民税、固定資産税、都市計画税、軽自動車税など
- 分担金及び負担金** 9億442万円(2.2%)
市が行う事業で特定の利益を受ける人などから徴収するお金
- 使用料及び手数料** 7億4,145万円(1.8%)
市の施設使用料や住民票、各種証明書などの交付手数料
- 諸収入ほか** 15億2,244万円(3.7%)
どの費目にも含まれない他の収入
- 地方交付税** 全国の自治体が同水準の行政を進められるよう、財政運営の均衡を取るために国から交付されるお金
- 国庫支出金** 国が認めた特定の事務事業の実施に当たって国から交付されるお金
- 市債** 国や金融機関などから借り入れるお金
- 県支出金** 県が認めた特定の事務事業の実施に当たって県から交付されるお金
- 地方譲与税** 6億3,000万円(1.5%)
国が徴収した税金から一定の基準に従い譲与されるお金
- 利子割交付金ほか** 15億8,717万円(3.8%)
県が徴収した預貯金などの利子に掛かる税金の中から交付されるお金 ほか

性質別に歳出をみると…



- 人件費** 職員や特別職の給与、議員・各種委員会委員の報酬など
- 扶助費** 生活保護費や児童手当、医療費などに使うお金
- 公債費** 道路や公共施設などの整備のため借り入れた市債の返済に充てるお金
- 補助費等** 各事業や団体への補助金や負担金に使うお金
- 物件費** 委託料、使用料や物品調達などに使うお金
- 繰出金** 国民健康保険や下水道事業などの特別会計へ繰り出すお金
- 普通建設事業費** 道路や橋、学校、公園などの建設・整備に使うお金
- 維持補修費** 市の施設などの補修に使うお金
- その他** 投資及び出資金、貸付金、災害復旧費、積立金

その他の会計

特別会計	金額 (万円)
磯野計記念奨学金	166万円
食肉処理センター	2億1,206万円
国民健康保険	102億 385万円
公共用地取得事業	1,079万円
下水道事業	58億3,096万円
農業集落排水事業	2億2,422万円
老人保健	15億4,042万円
全本明正奨学金	1,216万円
介護保険	74億7,543万円
簡易水道事業	3億 305万円
土地取得造成事業	523万円
後期高齢者医療	12億 309万円
財産区会計	1,212万円
水道事業会計	51億4,122万円
工業用水道事業会計	2億9,466万円

- 用語の説明**
- 一般会計** 福祉や教育、道路整備やごみ処理など基本的な市の事業を行う会計
 - 特別会計** 特定の事業を行うために特定の収入をその支出に充てるため、経理を独立して設ける会計
 - 財産区会計** 山林などを所有し、その管理や処分を目的とした特別な地方公共団体の会計
 - 水道事業会計** 水道事業から得られる収入で浄水や給水などの費用を賄う独立採算制の企業会計
 - 工業用水道事業会計** 久米産業団地に立地する工場への給水事業の企業会計

平成20年度当初予算を
市民1人当たり*で見ると…

1人当たり
約67万円

※110,269人(3月1日現在)



みんなのお金は大切に使うって、もらわないとね!

◆普通建設事業費は、新給食センター1建設事業などの大規模事業の完了により7億7808万円の減額

◆普通建設事業費、公債費、繰出金などが減額

◆歳出の徹底的な見直し、事業の選択と集中により予算を編成

◆人件費は1億9621万円(2.5%)増額

◆職員給などは人員減などで減額。しかしながら、退職手当の大幅な増額が影響

歳出

- ◆地方交付税は、地域間の格差是正のために新たに配分される「地方再生対策費」などにより一定の伸びが見込まれ、3億3000万円(3.0%)増額の見込み
- ◆市税は3億3293万円(2.5%)増額の見込み
- ◆財政調整基金5億円を取り崩し18年度(18億円)、19年度(9億円)に比べ、大きく抑制

歳入

行革王子です。みなさんの税金を無駄にしないよう事務のあり方や事業を見直して「しあわせ大国・つやま」の実現に向かって新たなステップを踏み出します。



「しあわせ大国・つやま」の実現を目指し、第4次総合計画の前期実施計画に採択した事務事業を最大限尊重しました。

また、行財政改革効果の一部を財源とする「しあわせ枠」は、本年度も引き続き実施し、子育て支援や安心安全のまちづくりなどの分野に配分しました。

総合計画の推進と行革効果

昨年引き続き行財政改革の推進を柱とする徹底した歳出の見直しと削減を行い、事業の選択と集中により、メリハリのある予算編成に努めました。

財源不足に対処

一般会計の予算額は、416億1300万円。昨年の当初予算と比較すると、3億7900万円(0.9%)を減額した緊縮型予算となりました。

一般会計の予算額は、416億1300万円
前年比3億7900万円減

予算の特徴